

第3次行田市教育大綱

令和7年3月

埼玉県行田市

[対象期間]

令和6年度から令和9年度まで

はじめに

教育とは、単に学校で知識を身に着け、技術を習得することだけを指すではありません。周りの友達と切磋琢磨しながらその多様な価値観に触れ、感性が磨かれていくこと、様々な環境での経験を通じて人間性が培われること、子どもたち一人ひとりの能力が花開くこと、これらは全て教育を受けることによって育つものです。教育とは、人間社会を形成する根幹であり、人間を人間たらしめるものが教育であると考えます。

そうした教育の在り方を、行田市はどのように見出し、取り組んでいくのか。私の教育への想いも踏まえ、具体的に示したものが「行田市教育大綱」です。

行田の子どもたちが健全に育ち、世界で活躍すること、行田で暮らす全ての皆さんが、生涯を通じて学び続け、成長できることを目指し、様々な教育施策に取り組んでまいります。

行田市長 行 田 邦 子

1 子どもたちの「生き抜く力」を育みます

変化の激しい時代において、行田の子どもたちが自信を持って様々なことに挑戦し、困難な状況にあっても自らの力で進むべき道を切り拓き、世界で活躍するためには、心身ともに健康であること、たくましく生き抜く力を育むことが重要です。

義務教育9年間を見通した小中一貫教育の取組を加速させるとともに、英語教育や AI をはじめとしたICT教育、学校給食を通じた食育などの特色ある教育に取り組めます。

また、幼少期から英語に慣れ親しむ機会を充実させるとともに、郷土の多様な歴史や文化を学ぶことで、自分が生まれ育った日本やふるさと行田に誇りを持ち、堂々と世界に発信できる人材を育成します。

2 子どもたちの「アイデンティティの確立」を支えます

子どもたち一人ひとりの成長や人間形成を促し、時代の要請に応えるスキルと生き抜く力を身につけるためには、アイデンティティ(※1)の確立を支えることが必要です。

行田の豊かな歴史資源を活かした体験学習によるシビックプライド(※2)の醸成や、学年の枠を超えたグループ学習による共創力の育成など、子どもたちの自己認識や自己理解を深める機会や、人それぞれが持つ考えや価値観に触れ視野を広げる機会の充実に努めます。

また、社会性や主体性を身につけられるよう、自然とのふれ合いや地域での社会体験、異世代との交流などの取組を推進します。

※1 アイデンティティ：自分という存在の個性や主体性、独自性

※2 シビックプライド：地域や自治体に対する住民の誇りや愛着、そして地域社会に貢献する意識

3 「通いたい・通わせたい」と思える学校づくりを進めます

子どもたちの学力向上や生き抜く力を育むためには、一定規模の学校が必要なことから、施設一体型の小中一貫教育に向けた義務教育学校への再編を目指します。

適切な維持管理をはじめ、ICT 環境の充実を図るなど、安全で快適な学校環境の整備を進めます。

また、不登校や引きこもり、ヤングケアラーなどで悩んでいる子どもとその家族への支援を、専門機関や市の福祉部門などと連携して取り組みます。

こうした時代のニーズや多様化する教育課題に対応するためには、教員の授業力や指導力の向上も重要です。常に向上心を持ち続けるよう意識改革を促すとともに、教員の働き方改革を推進し、子どもたちと向き合う時間を確保します。また、専門教科への外部人材の活用、民間による学校施設の維持管理のあり方を検討します。

4 生涯にわたる学びやスポーツ・文化振興を支援します

市民が充実した生活を送るためには、生涯にわたって学び続けられる環境を整える必要があります。

知識の習得だけでなくスポーツ・音楽・芸術など様々な文化に気軽に触れる機会や、スポーツ・文化芸術活動を行う団体への支援を充実させるとともに、指導者や後継者の育成、支援にも取り組みます。

また、市民一人ひとりが郷土に誇りを持ち、行田の豊富な歴史資源の価値や重要性を、郷土学習などを通じて次世代に伝え、文化財の保存や伝統文化の継承を推進します。

さらには、地域の学習活動のさらなる振興のため、学びの成果を還元できる場を創出し、多くの市民に触れてもらうとともに、行田の文化度を高めます。

5 人権が尊重され、誰もが能力を発揮できるまちの実現を目指します

性別や国籍、障がいなどにより差別されることなく、多様性が尊重され、全ての市民が自分らしく生きていくためには、人権が尊重される社会の実現が必要です。

市民に向けて一層の人権教育及び啓発を推進し、一人ひとりがお互いを認め合い、多様性を尊重し、誰もが能力と個性を最大限に発揮できるまちの実現に取り組めます。